

私たちの力で沼津駅の高架化を実現しよう



かけはし

主な記事

- 駅周辺総合整備事業の進捗状況……(1)
- 主張「今だからこそ」……(2)
- コンベンションビューロー視察……(1)
- 現地レポート「浜松のまちづくり」……(3)
- まちづくりセミナー「都市デザインからのアプローチ」……(3)
- 活動報告……(4)

編集・発行／沼津駅の高架化を実現する市民の会 〒410沼津市御幸町14-5(沼津商工会議所内) TEL<0559>31-1111代・FAX<0559>31-1115

沼津駅周辺総合整備事業 災害に強い安全な まちづくりを目指して

〈平成七年度進捗状況報告〉

去る平成七年一月十七日に発生した阪神淡路大震災は、六千人以上もの尊い人命を奪い、十万户以上の家屋を損壊させるなど、未曾有の被害をもたらしました。

私たちは、この惨憺たる状況をまのあたりにし、あらためて自然災害の恐ろしさに驚愕するとともに多くの教訓を学びました。

それは、私たちが推進する沼津駅周辺総合整備事業にとつて、災害に強い安全なまちづくりを目指していくことです。

先の震災では、火災の延焼防止や避難路、緊急物資の輸送路として、幹線道路の整備や、土地区画整理による街区の整備の重要性が報じられました。静岡県においても、東海地震の発生が危惧されていますので、これらの教訓を踏まえてまちづくりを進めていく必要があります。

市民の会事務局では、沼津駅周辺総合整備事業の平成七年度の進捗状況について市に取材をしましたので、市民の会の活動報告とともにお知らせします。

沼津駅周辺 総合整備事業 〈概要及び進捗状況〉

沼津市は、県東部圏域の中核的な拠点都市の形成を目指し、沼津駅周辺総合整備事業に取り組みしております。

平成六年度は、沼津駅周辺総合整備事業のうち、土地区画整理事業と関連道路事業の都市計画決定がなされるなど前進をみました。

平成七年度は、鉄道高架事業の都市計画決定を目指し、作業が進められました。

各事業の概要及び進捗状況は次のとおりです。

【鉄道高架事業】

鉄道高架事業は、平成三年度から静岡県が主体となり、基本設計等の調査が進められています。

また、平成六年度から国庫補助事業として採択され、国から財政面の支援を得て、市・県・JR東海・JR貨物により、東海道本線並びに御殿場線の配線計画案が検討されてい

ます。

平成七年度に概ね方向づけられた計画案の概要は、次のとおりです。

- (1) 高架区間は、東海道本線が、大岡団地付近から片浜付近までの約四キロメートルで、御殿場線が大岡団地付近から沼津駅までの約一・五キロメートル。
- (2) 高架施設面積は、約八・八ヘクタール。
- (3) 立体交差化する幹線道路数は、八路線。(国道一路線、県道一路線、市道六路線)
- (4) 撤去される踏切数は、十三箇所(東海道本線十二箇所、御殿場線一箇所)
- (5) 駅部の南北幅は、現況の約八十メートルから約五十メートルへとスリム化が期待されます。
- (6) 旅客ホームは、三面六線となり、ホームの並びは、南側から東海道本線下りホーム、御殿場線ホーム、東海道本線上りホームとなります。御殿場線ホームが東海道本線上下ホームの間にくるため、東海道本線の上下ホームが混雑した場合、運行上、余裕のある御殿場線ホー

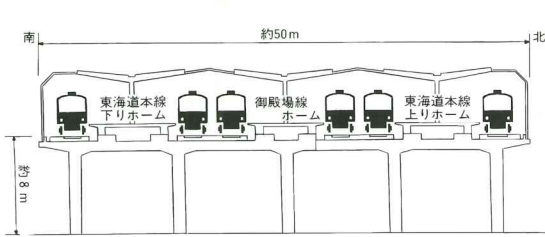
ムの有効活用ができ、東海道本線の増発が可能となる計画とされています。

(7) 駅部の高さは、現在の位置よりも約八メートル高くなります。

(8) 高架構造物は、地震に強いラーメン構造を基本とし、本体に影響のない範囲で、景観に配慮したデザインが検討されています。

(9) 移転を要する鉄道施設は、車両基地と貨物駅で、それぞれ片浜地区と原西部地区に予定されています。

新沼津駅ホーム イメージ図



阪神淡路大震災の教訓を踏まえて、運輸省より、鉄道新設構造物の耐震設計の新基準の通達がなされました。これにより、主要構造物(高架橋、橋台、橋梁等)が、阪神淡路大震災クラス以上の地震動に耐えられるかを詳細に解析し、耐えられるものを設計していく作業が行われています。これらの作業が終了後、概略設計、都市計画案の作成、地元説明等へ進む予定です。

また、鉄道施設(車両基地、貨物駅)の移転についても、鉄道高架事業との整合を図りつつ、できるだけ早く地元の皆さんに具体的な計画を示せるように、引き続き話し合いを進めていきます。(2ページへ続く)

主張

今だからこそ

市民の会副会長

沼津市商店街連盟
会長 芦川 勝年



「沼津がなんて素晴らしい街」と体感できるようになったのは、ここ数年前から

の事である。視覚的に変わりゆく地域の変化が、様々の分野の方々からの好意的な表現に助けられ、しかも確実なものとなりつつある道筋に自分が参加できることに喜びを感じている。この三月には、清水町と沼津をつなぐ香貫大橋が完成した。道の延長には、市役所、商工会議所があり、御成橋を渡ると、右手に明年完成するシテイホテルが建築中であり、形状の全容をみせはじめた階段堤は、陽にキラキラ輝く狩野川の川面と共に、市民の憩いの場として、日常的な風景に溶け込み始めた。

さらに、市街地と香貫方面を結ぶ歩行者自転車専用橋も着工の途についていた。御用邸記念公園の整備も進み、県内外の訪れる方々の高い評価は一市民として誇りすら感じる。園内では催されるイベントの質の高さ、そして何より、沼津らしさを取り入れた実行手段のブレンドに心をときめかせる人も多い。私自身のスノビズムでは決してない。このような舞台が有機的に結び合い、結果として、市民の方々と一体化し「にぎわい」を創り出すものであることを十分認識した施策であろう。

さて、沼津駅周辺総合整備事業が、将来への期待をこめて事業実施に入った。鉄道の高架化、道路整備、土地区画整理、駅北地区開発が内容のあらましである。慎重な方々は、この時代に難しいのご意見も耳にする。静岡も浜松も都市づくりが進ん

ているのにと嘆く方もいる。最近の沼津の実績を考えれば、先行した都市から多くの問題を学ぶべきのできる沼津市の行政への期待は大きい。明日、完成する事業ではない。積み重ねた経験と、歳月の中で段階を経て完成する。過程の中の障害を、他都市はどのように対処し、解決してきたか、広く先人の知恵に学ぶと共に、市民一人ひとりが押し寄せる時代の変化や、潮流を見定め後世に悔いの残らぬまちづくりの為、参加することが必要となっている。

商業者として、この周辺整備に大きな不安と夢を持っている。不安とて高架化によって生まれる商業集積に既存の商業地として、どのように対応していくかという事である。しかし、いつの時代にも競争はあり、必要とされぬエリアは消えていく歴史の証明がある。

夢としては、いかんともしがたい道路状況の解決がある。市内を走る東西二本、南北三本の幹線道路の状況が現実にある。地域実情を考慮せぬ、全国一律の規制緩和の波が沼津にも押し寄せている。交通基盤の整備がなされていない街区で、生活の中で消費という一分野に地域バランスを無視した単なる売り場の拡大で、自社の利のみを優先する大型店の出店が重要な都市機能である交通体系の混乱に、破壊に拍車をかけている。私達の街沼津は市民生活に潤いをもたらす事業実施を順よく、効率よく行ってきた。全体の為、今に大きな機軸を強いることなく、一生に大きな機軸を、人々を存続させつつ、この周辺整備が完結するよう、身を置く分野分野での市民各位のご努力が沼津の明日を創り上げていくと確信している。

【関東道路事業】

平成六年四月に、土地区画整理事業と併せ、新設、改良の十二路線が都市計画決定されました。

この他の道路については、鉄道高架事業と併せ都市計画決定を必要とする路線について駅周辺の道路網等を考慮しながら、関係機関と協議を進めていきます。

【土地区画整理事業】

平成六年四月に、沼津駅周辺地区の約四十・二ヘクタールが都市計画決定されました。

駅南地区(約十二・五ヘクタール)は、沼津駅南土地区画整理事業として、沼津市が施行します。

市では、昨年四月に、より地元の皆さんのご理解を得るために、現地事務所としての駅周辺区画整理事務所を、元東海財務事務所跡地に設置しました。

また、九月より、権利者の方々の懇談会を開催し、十一月より計画区域である白銀町、西条町、添地町、大手町の現況測量・地区別測量、建物現況調査が実施されました。

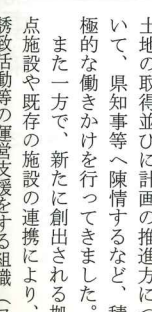
駅北地区(約二十七・七ヘクタール)は、静岡東部拠点特定再開発事業として、地域振興整備公団が施行します。(全国第一号)

公団では、昨年五月に、市の事務所と同じ所に、現地事務所として、静岡東部拠点特定再開発事務所を設置しました(一階が市、二階が公団となります)。

公団では、十二月より、地元役員の方々と話し合いを開催し、一月から二月にかけて、権利者の方々と話し合いを開催いたしました。

そうした中で地元のご理解のもと、高島町、杉崎町、米山町の三地区において現況測量等が行われました。

これまで、市・県・国をはじめ多数の関係機関の参画を頂き、導入施設計画等の検討がされています。昨年十一月には、市長を委員長とし、県・公団の関係部長を委員とする東部地域拠点施設整備検討委員会が組織され、検討がなされています。沼津市にとって念願でありました事業用地(約五・九ヘクタール)の取得については、沼津市だけでは買いきれないため、これまで県に対し、一部取得を要望してきました。昨年十二月には、県議会議員のご協力を頂き、官民あげて県に対し、市・市議会・市民の会が合同で、県知事等への陳情等を行いました。沼津市をあげての精力的な取り組みにより、県においても、事業団用地(約五・九ヘクタール)の概ね三分の一を市と併せ取得することとなり、また一つ、事業の進捗はもとより、県から財政面の大きな支援が得られることになりました。以上が、事業の概要及び進捗状況です。



文責 商工会議所・山室

【はじめに】

静岡東部地域は、温暖な気候と富士山、箱根、伊豆といった豊富な観光資源を有する大変自然環境に恵まれた所であり、また、東海道本線、東名高速道路といった広域交通の整備が進む大変交通条件に恵まれた所でもあります。

このため、県内をはじめ全国各地から年間七千二百万人以上(平成六年度)も観光客が訪れております。この静岡東部地域において、沼津市は、歴史的・社会的経緯により中心的な都市として発展してきました。

だが、今後ともその役割を担っていくことが近隣市町村からも期待されているところである。昭和六十二年の国鉄民営分割に伴い、沼津市の都心に約五・九ヘクタールといたった広大な鉄道跡地が生まれました。

この土地は、沼津市がまちづくりを進めていく上で一大契機となる大変重要な土地であり、二度と発生しえない貴重な土地でもあります。

この土地を活用して、東部圏域発展のための原動力となる核的施設の建設を目指すことは、沼津市のみならず、近隣市町村からも大いに期待されているところです。

現在、市・県・国等関係機関により、導入施設計画等について委員会を組織するなど、積極的な検討がなされていますが、私たちが市民の会におきまして、昨年十二月に、この土地の取得並びに計画の推進方について、県知事等へ陳情するなど、積極的な働きかけを行ってまいりました。

また一方で、新たに創出される拠点施設や既存の施設の連携により、誘致活動等の運営支援をする組織(コ

先進都市視察レポート

【コンベンション・ビューロー】

ンベンション・ビューロー)についての調査・研究も行ってまいりました。【コンベンション・ビューローとは】近年、各種大会、会議、イベント等の開催件数は増加の一途にあり、これらの会議等は、その開催地に多大な経済的波及効果をもたらすと言われております。

このため主催者にとっては、より最小限の労力で円滑に会議等を開催することが望まれ、また参加者にとっては、より最大限の成果で楽しく会議等に参加できることが望まれております。

しかしながら、各種大会、会議、イベント等を開催するための受け入れ体制は、その主催者となる各種団体、協会、学会等において必ずしも万全であるとは言えません。

それは、受け入れ事務局に主催するためのノウハウの蓄積がないことや、平常業務の合間に準備に当たらなければならぬことなどが挙げられます。

コンベンション・ビューローは、これらの各種大会、会議、イベント等の支援を一括して行うために、全国的に組織化されています。

その主な業務内容は次のとおりです。

(1)誘致活動



広島市コンベンションビューロー訪問



浜松コンベンションビューロー訪問

- (2)出捐団体
 - 静岡県 静岡県 一人
 - 浜松市 一人
 - 商工会議所他十三企業 一人
 - 静岡県 一人
 - 浜松市 二人
 - 商工会議所 二人
 - JTB 一人
- (3)職員構成

【ビューロー現況の問題点】

コンベンション・ビューローは、主に財団法人であるため、その活動資金源が、財団の基本財産の運営利息によるところが大きく、常に金利動向に左右されるなど、財政的に不安定であると言えます。

また、コンベンションのニーズが多様化し、その誘致活動が専門的かつ長期間であるため、県及び市の出向職員では、対応に限界があると言えます。

これは、どの都市のビューローにも共通してはいますが、とりわけビューロー独自の職員の採用及びその育成についての取り組みが重要視されています。

【おわりに】

コンベンション・ビューローは、既存のコンベンション対応施設を有機的に結び付け、施設利用の効率化を促すとともに、コンベンション誘致を行うにあたっては無くしてはならない組織と考えます。

今後、沼津市におけるコンベンション・ビューローの設立可能性等に関する検討にあたっては、今回の視察結果をさらに分析するとともに、引き続き、コンベンション関連企業を含む地元経済界と市による調査、研究をしていきたいと思います。

- (2)出捐団体
 - (3)職員構成
 - (4)ボランティアの育成・活用
 - (5)アフターコンベンションの企画・支援
 - (6)観光資料、観光施設優待チケット等の提供
 - (7)開催準備資金の貸し付け制度
 - (8)開催補助金交付制度
- 【ビューロー設立までの経緯】
- 前述のとおり、各種大会、会議、イベント等の開催は、その開催地に多大な文化的、経済的波及効果をもたらすため、誘致競争は、施設等のハード面の整備とともに、年々熾烈となつていきます。
- 各都市では、これらのコンベンション誘致や開催にあたり、ソフト面の各種支援サービスを充実強化させるために、地元市及び商工会議所、コンベンション関連企業等を中心に官民一体となって組織づくりを行い、コンベンションビューローの設立に至っております。
- 主な運営形態は、次のとおりです。
- (参考)
- ・浜松市
 - (1)出捐団体(運営形態)……財団法人
- 今回の視察レポートは、既にコンベンション・ビューローを組織し、活動している先進都市のうち、平成七年十一月九日に浜松市・静岡市、平成八年二月二十九日〜三月一日に広島市・岡山市に赴き実地調査を行ったものによります。
- (文責 商工会議所・山室)

現地レポート

浜松駅の高架化と
駅周辺整備事業

視察研修に参加して

原町商工会理事 望月 宏 充

「市民の会」では去る一月二十三日と二十五日、総勢八十余名が一昨年十月八日オープンした「浜松アクトシティ」と「鉄道高架化事業（JR線、遠鉄線）」、「駅周辺土地画整理事業」、「駅周辺主要建築物（駅前広場、サンクンガーデン、ギャラリーモール、駅ビル・メイワン、遠鉄百貨店、アクアマール、フォルテビル、イトヨーカドー）」の概要をつぶさに視察した。
JR浜松駅高架化事業の場合、静岡県が事業主体で、総延長五・三三キロメートル、事業費二百五十七億円、昭和五十四年十月の供用開始まで約十八年かかったという。「アクトシティ」は浜松テクノポリスなど諸構想の推進拠点として、高次都市機能の集積を図るため、民間活力を活用して整備されたものである。



一月二十三日の「沼津駅の高架化を実現する市民の会」主催の「浜松駅の高架化と駅周辺整備事業」視察研修に原町商工会の一員として参加させていただいた。

浜松市では鉄道で分断されたアンバランスな市街地形成、慢性的な交通渋滞による住民環境の悪化等の懸案を解決する為、鉄道高架化事業と

土地画整理事業を官民一体となつて同時進行の形で推し進めていった事、計画された当時（昭和三十七年）から今の姿に生まれ変わるまでの長い年月の間には多くの難問に突き当たり、それらを諸機関と市民の理解協力により完遂した事等の経過説明、出来上がった施設等の概要説明を市職員より聞いた上で、駅周辺を説明を受けながら見て廻り、すばらしい施設、建物、景観等に感銘を受けた。特に、滝・モニュメント・壁画等



アクトタワーを背景にハイパチリ

を備え、駅と地上を地下道で結ぶ安らぎ空間「サンクンガーデン」（地下広場・庭園）と駅前広場。
市の玄関口と中心商業地を結ぶブルムナードとして安らぎと憩いをもたらす水と緑の歩行空間「ギャラリーモール・アクアマール」。
駅と直結し、産業・商業と文化の調和ある人間都市を目指して平成七年オープンした官民一体型、複合都市空間「アクトシティ」(Aはアース、Cはコンプレッション・コングレス、Tはテクノロジーの略、これらは二十一世紀に向かって風格ある浜松をきずく市の顔であり、又、アクトシティを形成する楽器博物館、音楽広場、シヨパンの丘、大・中ホールはさすが音楽都市を目指す発想だと思つた。

取り組んでいるとの事で、二十一世紀に向かった夢ある県東部拠点都市沼津を築く上で、先輩都市浜松は良いお手本になると思う。
又、我々の住む原地区は沼津駅の高架化に伴う貨物駅の移転、設置の候補地となっており、少なからず町の将来、発展に係わりがあり、関心を持たざるをえない。
今、原町商工会でも「小規模事業活性化ビジョン実現委員会」、「地域資源調査委員会」等で原・浮島地区の将来に関する研究、掘り起こし等に取り組んでいる。これからの沼津を考えて行く上で多くの関係機関、市民が浜松市等の先進地を視察、見学し理解を深め、参考にして行くべきだと思ふ。

短時間の見学だったが私にとり非常に新鮮な映り、興味を持って見る事が出来、高架化、まちづくりを考える上で非常に勉強になった。
鉄道高架化の実現・区画整理には長い年月、資金、多くの問題等を官民一体となつて協力し、解決していかなければならぬ。
沼津でも沼津駅高架化、駅周辺整備事業に十年位前か



アクアマールで記念撮影（1/23）

報告

まちづくりセミナー
「都市デザインからのアプローチ」

2月26日 ブケ東海

市民の会では去る二月二十六日、ブケ東海において、「まちづくりセミナー」を開催しました。このセミナーはシリーズで毎年一回開催されているものです。
このセミナーは「駅周辺総合整備事業」の進捗状況を広く報告し、まちづくりを「都市デザイン」の視点でとらえた講演を聴くことにより、沼津における「まちづくり」を考察し推進の気運をさらに盛り上げるために催されたものです。

先ず市開発課長杉山智氏が「駅周辺総合整備事業の進捗状況」について報告、続いて東海大学海洋学部海工土木工学科助教川口宗敏氏が「都市デザインからのアプローチ」と題する講演をされました。講演の中では、印象に残った点としては、いわゆるまちづくりに当たって、①地域性、②生活性、③物語性、④参画性、⑤時間性といった要素を取り入れる必要があるということでした。
次に市民の会大橋光雄会長のセミナーに先立ち述べられた挨拶（要約）を紹介しておきます。

「市民の会も昭和六十六年五月十四日設立以来足かけ九年になる。この間常に沼津市が将来を見すえて進めている「まちづくり計画」に沿い、市民サイドからその実現のために全面的にこれを支援して来た。具体的には、平成七年度にはJR沼津駅北口駅舎の新築移転や



熱気あふれるセミナー会場

活動報告

定時総会の開催

「沼津駅の高架化を実現する市民の会」(会長大橋光雄 沼津商工会議所会頭)では設立八年目を迎えた平成七年度において実施した活動をまとめた。当会が目的とする「沼津市の中心市街地における都市交通問題の抜本的解決をはかる」とともに、沼津市の活性化を促進することを旨とし、沼津駅の高架化を実現する」ことを目標に事業を展開した。陳情の実施、先進地の視察、調査の実施、広報紙「かけはし」の発行、まちづくりセミナーの開催などである。いずれも目的達成に標準を合わせた事業で、沼津市や沼津市議会と連携し、これを支援するための民意を結集する成果を上げたと評価し、次年度の活動にはずみをつけたといえる。

活動の内容は次のとおり。

○とき 六月十九日(月)

○ところ ホテル沼津キャッスル

○参加者 約百名

総会は、当会顧問の桜田光雄市長、川口末吉市議会議長などを来賓に迎えて開催された。

大橋会長は挨拶の中で、「着実な前進に向け、市、市議会とともに民意の形成に努めて行きたい」と新たな決意を述べた。また当会顧問の桜田市長は、「魅力と活力ある都市づくり」に、災害に強い安全なまちという観点も盛り込んで行く。なお一層市民各位のご理解とご協力をお願いしたい」とあいさつした。

議事に入り従来の事業を継承する中で、調査研究、先進地視察、まちづくりセミナー、関係機関への陳情、



官民一体の活動を誓った沼津駅の高架化を実現する市民の会総会
＝沼津市日の出町のホテル沼津キャッスル＝

広報紙かけはしの発行など計画と予算が原案どおり承認された。

その後、市当局より、駅周辺総合整備事業の進捗状況について説明報告をうけた。引き続き「地域性、創造性のあるまちづくり」と題して社会計画研究所取締役加藤廣氏が記念講演を行った。

調査研究の実施

(その一) コンベンション ビューローの先進地視察

○とき 十一月九日(木)

○ところ 助静岡 コンベンション ビューローと(助)浜松 コンベンション ビューロー

○参加者 当会副会長荻生氏、市開発課長杉山氏他二名、事務局山室部長他一名

○内容 今号二ページ参照



岡山市コンベンション推進協議会にて

調査研究の実施

(その二) コンベンション ビューロー先進地視察

○とき 二月二十九日(木)

○ところ 広島市 コンベンション ビューローと岡山市 コンベンション 推進協議会

○参加者 当会副会長荻生氏、市開発課片沢室長他二名、事務局佐藤課長他一名

○内容 今号二ページ参照



現地説明に聴き入る参加者

調査研究の実施

(その三) 先進地浜松の視察

○とき 一月二十三日(火)、二十五日(木)

○ところ 浜松駅の高架化、周辺総合整備事業

○参加者 一回目四十名、二回目四十三名

○内容 車内研修、現地研修、現地見学、詳細は今号三ページ参照

○とき 十二月二十六日(火)

○陳情先 石川嘉延静岡県知事他

○参加者 桜田沼津市長、川口市議会議長、田上市議会議長、大橋市民の会促進特別委員長、大橋市民の会

静岡県知事等への陳情

○内容 会会長他総勢三十余名

○内容 駅周辺総合整備事業の促進、国鉄清算事業跡地の取得要請

県知事への市長、市議会議長の発言に続き、市民の会大橋会長は「国鉄清算事業団用地の開発は、地元にとりまして、将来を左右する大変重要なものだ。沼津周辺地区経済界からも県東部の要となる場所と認識されている。県のお力で事業団用地の早期取得をお願いしたい」との発言を行った。

三者懇談会の開催

市・市議会・市民の会

○とき 十二月二十六日(火)

○ところ 沼津軒

○参加者 市長、市議会議長、市議会議長、市議会議長、市民の会会長、事務局員総勢三十一名

当日県知事等への陳情を行い、帰路東静岡地区新都市拠点整備事業事務局に立ち寄った後、沼津に戻り、その成果と今後の取り組みについて和やかなムードの中で話し合いを行った。

まちづくりセミナーの開催

○とき 二月二十六日(月)

○ところ ブケ東海

○参加者 約百名

○内容

① テーマ「駅周辺総合整備事業の進捗状況」説明、市開発課長杉山智氏

② テーマ「都市デザインからのアプローチ」講師東海大学海洋学部助教授川口宗敏氏

詳細は今号三ページ参照

諸会議の開催

一、正副会長会議

○とき 六月十二日(月)

○ところ ホテル沼津キャッスル

○内容 会会長他総勢三十余名

○内容 駅周辺総合整備事業の促進、国鉄清算事業跡地の取得要請

県知事への市長、市議会議長の発言に続き、市民の会大橋会長は「国鉄清算事業団用地の開発は、地元にとりまして、将来を左右する大変重要なものだ。沼津周辺地区経済界からも県東部の要となる場所と認識されている。県のお力で事業団用地の早期取得をお願いしたい」との発言を行った。

○内容 駅周辺総合整備事業の進捗状況、総会上程議案

特に駅周辺総合整備事業の進捗状況について市高橋助役、杉山開発課長、片沢室長を招き、報告をうけ、質疑応答、意見交換を行い、さらなる推進を図るための対策を練った。

○とき 十二月十八日(月)

○ところ 商工会議所委員会

○内容 駅周辺総合整備事業の進捗状況、県知事等への陳情、広報啓蒙紙「かけはし」の発行等を進めて来た。市民の会の望みや願いは、市、市議会の努力によって一歩一歩前進し、実現の方向に進んで来ていることは間違いない。しかし、その歩みやその内容はボールに包まれていたり、霞がかかった如くに、私たちの目には定かなもの、確かなものとして映って来ない。と思うのは、このまことに住み、このまにかかわりをもつ人たちの、この大プロジェクトに寄せる望みや願いが大きく強いがゆえの焦りや苛立ちであると思う。

が、鉄道の配線計画の検討内容が示された後、駅南、駅北両地区の区画整理地区内で測量が行われていくと聞いたり、清算事業団用地の取得費が県、市において予算化されたと報じられるとその焦りや苛立ちの気持ちややわらぐから不思議である。

「市民の会」広報啓蒙紙「かけはし」創刊号の「ページ目」に描かれた駅を中心とした周辺地区(海が見えカモメが舞っている遠景も含めて)の未来予想図が目に見えて来ている。林立するビル群の谷間を「電車」や「車」が行き交う光景がいつ現実となるのか、そしてその全容がいつ明らかとなるのかに想いを馳せるのは私だけではない。

二、事務局会議

○とき 十一月十日(金)

○ところ 商工会議所委員会

○内容 事業計画、予算の執行状況と今後の見とおし、コンベンションビューローの調査の方向性と結果報告の組立て

○とき 十二月十一日(月)

○ところ 商工会議所委員会

○内容 十二月・三月の事業計画の具体化

○とき 二月十六日(金)

○ところ 商工会議所委員会

○内容 まちづくりセミナー、コンベンションビューローの視察、かけはし第十号の発行

○とき 三月六日(木)

○ところ 商工会議所委員会

○内容 かけはし第十号の発行 (編集会議)



編集後記

六月開催の定時総会において官民一体の活動を誓い合せてスタートを切った平成七年度のはじまりであった。そうした思いを込めて、調査の実施、先進地の視察、まちづくりセミナーの開催、県知事等への陳情、広報啓蒙紙「かけはし」の発行等を進めて来た。市民の会の望みや願いは、市、市議会の努力によって一歩一歩前進し、実現の方向に進んで来ていることは間違いない。しかし、その歩みやその内容はボールに包まれていたり、霞がかかった如くに、私たちの目には定かなもの、確かなものとして映って来ない。と思うのは、このまことに住み、このまにかかわりをもつ人たちの、この大プロジェクトに寄せる望みや願いが大きく強いがゆえの焦りや苛立ちであると思う。

が、鉄道の配線計画の検討内容が示された後、駅南、駅北両地区の区画整理地区内で測量が行われていくと聞いたり、清算事業団用地の取得費が県、市において予算化されたと報じられるとその焦りや苛立ちの気持ちややわらぐから不思議である。

「市民の会」広報啓蒙紙「かけはし」創刊号の「ページ目」に描かれた駅を中心とした周辺地区(海が見えカモメが舞っている遠景も含めて)の未来予想図が目に見えて来ている。林立するビル群の谷間を「電車」や「車」が行き交う光景がいつ現実となるのか、そしてその全容がいつ明らかとなるのかに想いを馳せるのは私だけではない。

- 編集委員 (順不同)
- 藤江 浩 伏見 博行
 - 原 靖 原 康久
 - 小沙 美勝 佐藤 泰興
 - 荻生 昌平 山室 公義